

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～福島県～

## 福島県の課題

- 小学校の外国語教育の拡充・強化
- 中・高等学校におけるCAN-DOリストの形で設定した学習目標に基づく指導と評価改善の促進・充実

- ・ 外部専門機関（福島大学、宮城教育大学）との連携による、授業改善を踏まえた、教員の英語指導力向上とその研究成果の普及・周知
- ・ 指定した地域内（会津若松市内）における小中高連携による授業改善

具体的な取組内容 研修協力校3校(会津若松市立城西小学校、会津若松市立第三中学校、県立葵高等学校)による公開授業・授業研究を実施

城西小学校(9/12)

指導助言: 宮城教育大学准教授

会津若松第三中学校(10/23)

指導助言: 福島大学准教授

県立葵高等学校(12/6) ※全県に公開

指導助言: 福島大学教授 参観者: 53名

## 成果

- 異校種間の連携により、児童・生徒の英語学習の過程を確認することで、それぞれの校種におけるゴール設定がしやすくなった。

- 研究授業参観・研究協議に対する満足度 100%が肯定的な評価

\*「小中高接続について勉強になりました」、「CAN-DOリストの小学校版についてイメージを持てました」、「4技能をバランスよく向上させるための活動と評価(特にパフォーマンステスト)の工夫が必要であると感じました」「中学校の教材と比較し、自分だったらどう展開し、取り入れるか考えさせられました」



CAN-DOリストの整備状況

|     | H29   | H30   | 上昇率   |
|-----|-------|-------|-------|
| 中学校 | 65.6% | 76.1% | 10.5% |
| 高校  | 100%  | 100%  | —     |

- CAN-DOリストの整備が進んだ。

## 成果の波及・周知について

外国語教育だより(English Wind)の発行(義務教育課)により周知



## 課題

- ① 小学校の外国語教育の拡充・強化に向けて、研究協力校の取組を効果的に波及させること。
- ② CAN-DOリストを活用した指導と評価の実践。
- ③ パフォーマンステストの実施方法と適切な評価方法の研究。

## 課題解決へ向けた手立てと今後の方向性

- ① 本県独自の推進プランと関連づけ、従来の取組を整理・分析し、研究を深め、その成果をさらに広めていく。
- ② 各校において、CAN-DOリスト形式による学習到達目標の公表及び学習到達目標の達成状況の把握に努める。  
また、特に「話すこと(発表・やりとり)」「書くこと」に係るCAN-DOリストの評価基準と指導方法について研究し、発達段階に応じた指導を可能とする。
- ③ テーマ設定による公開授業及び授業研究を開催する。  
・ 即興性の涵養に向けた言語活動の在り方について研究する。

# 平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～会津若松市立城西小学校～

## 現状の課題

- ・児童自身に「わかる」「できる」を実感させることが難しい。
- ・教科化に向け、評価のあり方について不安がある。

## 課題解決のための手立て

- ・全単元のCAN-DOカード作成をもとにした小学校版CAN-DOリストの作成
- ・ICTを効果的に活用した授業実践
- ・他校種間の授業研究会参加・小中共通の意識調査の実施(学習目的・方法等)

## 具体の取組の内容

### 取組事例① 指導と評価に役立つ1単元1枚のCAN-DOカード

表  
CAN-DO

裏  
自由記述

4段階で、自己評価の基準を示す。

| 目標   | 1    | 2   | 3    | 4    |
|--|------|-----|------|------|
| ほしい物の名前がわかる。                               | 8/30 | 7/4 | 9/16 | 9/19 |
| ほしい物の伝え方がわかる。                              | 8/30 | 7/4 | 9/16 | 9/19 |
| アルファベットの大きな文字を聴いて、どの文字かわかる。                |      |     | 7/3  |      |
| アルファベットの大きな文字を正しく読むことができる。                 |      |     | 7/3  | 9/19 |
| 自分の名前や友達の名前を大文字で書くことができる。                  |      |     |      |      |
| 一人でも、友達にほしい物を伝えることができる。                    |      |     |      |      |
| ほしい物をたずねられたら、ジェスチャーなどを使って、自分の思いを伝えることができる。 |      |     |      |      |
| 絵や写真を打ったり、反応したのちに、手の動きを模倣することができる。         |      |     |      |      |

単元を通した自己成長がわかるよう単元1枚で作成。

本時以降も、目標に近づいたら、ポイントの上があった日付けを記入。

カード裏面は自由記述。学習ノートのように覚えておきたいことを書く児童もいる。

一年間分を集積し、小学校版リストを作成

## 成果①

- ・身につけるべき達成目標を単元計画に明確に位置付けて、指導できた。児童にとっても、活動の目的や意味づけが明確になった。
- ・自由記述に、学習内容に関する記述が増えた。
- ・文字・発音・リズム・語彙・表現に関する気付きや友達の取り組みの良さを、カードを紹介することにより、児童間で共有できた。
- ・児童のつまずきや困難さに教師が気付き、補充指導へ生かすことができた。

## 成果②

- ・ほぼ毎時間、電子黒板を使った授業を展開。映像・画像・音声、児童の学習内容理解に大いに役立った。
- ・新教材のデジタルコンテンツは、新学習指導要領がめざす英語力・コミュニケーション場を教師自身がイメージすることができ、教材研究として大いに役立った。

## 今後の課題・方向性

- ・小学校版のCAN-DOリストについて、特に小中の接続時期について、より丁寧に見直し、円滑な接続に配慮する。
- ・小学校4年間で扱う言語活動の話題・内容についても、目標同様に洗い出し、学年間の系統性を整理するとともに、中学校との連携をはかっていく。  
(地域性・発達段階を考慮した言語活動の構築)
- ・即興性に対応する話す力をつけるために、小中共通のリアクションシートを作成し、学習の積み上げを生かしていく。
- ・指導に生かせる適切な評価方法については、さらに研究が必要。

### 取組事例② ICTを効果的に活用した授業実践

- ① 新教材のデジタルコンテンツ
  - ・学習の方向づけ・基本表現への慣れ親しみ(歌・チャンツ)
  - ・活動や会話、スピーチのモデル
- ② 絵本の提示
- ③ 写真・クイズ・地図などの提示(英語理解の補助)
- ④ 児童のスピーチでの資料提示
- ⑤ 自作資料の提示
- ⑥ 学習形態や活動の仕方の提示



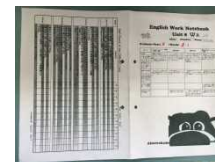
# 平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～会津若松市立第三中学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・CAN-DO リストの改善及び活用の工夫と、4技能の育成を図る指導の工夫 ・基礎・基本の確実な定着のための工夫
- ・自己表現ができる力と他者とコミュニケーションを図ることができる力の育成を目指した授業改善

## 具体の取組の内容

- CAN-DOリストの活用:生徒への意識化と生徒との共有化を図る工夫
  - ① 単元ワークシート集と合わせての配付・活用 ② 本時のめあてとして板書 ③ CAN-DO リストを基にしたワークシートの作成・活用
- 4技能の総合的な育成を図る言語活動の工夫
  - ① 目的・場面・状況を意識した課題解決的言語活動
  - ② 即興的・継続的な「やりとり」を目指した言語活動 Listening & Speaking ③ 英作文活動・長文読解活動 Writing/Reading
- 自己表現力とコミュニケーション力の育成を目指した学習活動の工夫
  - ① 自己表現や対話中心の帯活動の工夫 (Interview Game / Let's Chat! / Q&A ・A&Q)
  - ② 思考力・表現力の育成を目指した言語活動 (自己紹介 / 人物紹介 / 友達理解～好みについて～)
- ICTの活用→電子黒板やデジタル教科書の活用 ○ 学び合い学習活動や対話活動の継続的実践
- 活用力につながる単語・語彙力向上を図る実践 ○ 小・中・高連携の強化 ①相互授業参観 ②情報交換



## 成果①

### 【連携】

- 有効な助言:外部専門機関の先生方からの助言を日々の指導改善に生かすことができた。
- 小中高連携による相互理解校種ごとの英語指導の実践への理解が深まり、連携の重要性を実感すると共に今後の課題を確認し合うことができた。
- 指導方法改善へ:小学校のコミュニケーション活動の指導や、高校の長文読解指導を参考に、指導改善を行うことができた。

## 成果②

### 【校内】

- 積極的な授業実践:「具体の取組内容」に挙げた視点での言語活動等の工夫や、指導方法の改善や授業改善を継続して実践することができた。



- 生徒の意識向上:英検受験者数が1学期と比較し2学期は2倍に増加した。また、校内意識調査の英語授業に対する「『わかった』『できた』と感じる」や「めあての達成」等の項目の数値が3学年は特に高まった。

## 今後の課題・方向性

### 【連携】

- CAN-DOリストの改善:小中高の整合性
- 小中高連携の強化:授業参観・情報交換
- より効果的な言語活動を目指すための小・中の言語活動の系統一覧作成

### 【校内】

- CAN-DOリストの改善:新学習指導要領対応リスト作成・より効果的な活用方法の工夫
- 言語活動の充実:4技能や表現力、コミュニケーション力の育成・「やりとり」・タスク活動
- ICT推進 ○評価の工夫:パフォーマンス評価



# 平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～福島県立葵高等学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・**現状の課題**: 大学進学希望者が多いが、模試や外部試験の平均点は全国と比較するとやや下回っている。語彙力が不足している。
- ・**課題解決のための手立て**: 4技能をバランスよく育成するため、授業での言語活動を充実させる。語彙力定着に向けた単語テスト等をこまめに行う。パフォーマンステストを実施する。

## 具体の取組の内容

- ・**Reading**について: 授業ではワークシートを活用し、ペアになってさまざまなパターンで音読を繰り返したり、意味のまとまり毎に文を適切なフレーズに分けて覚えたり、本文を要約させたりしている。訳読に頼らず、生徒自身が英語を使う時間を授業内で多く設けようという心がけている。
- ・**Listening**について: 朝自習でListening問題(市販の問題集や外部試験の過去問など)やDictationに取り組んでいる。
- ・**Writing**について: 授業で扱った内容を元に、要約文やエッセイを書く課題を与えた。定期考査でもWriting問題を出題するようにしている。添削に関しては、ALTにも協力してもらっている。
- ・**Speaking**について: 普段の授業で、教科書の内容を口頭で要約し、ペアの相手に伝える活動を取り入れている。また、1年生では今年新たな試みとしてRecitation contestを実施した。コミュニケーション英語の教科書から1レッスンを取り上げ、各パートをグループで一人ずつ分担任て覚え、暗唱した。評価表(声の大きさ、発音、流暢さ、ポーズなど)を作成したので、生徒たち評価観点を意識して練習に取り組んでいた。自分以外のグループの発表にもしっかり耳を傾けていた。
- ・**語彙力定着へ向け**: 授業の冒頭の帯活動を使い、単語帳を覚えてペアで問題を出し合ったり、単語テストをこまめに行ったりしている。最近では単語帳のスマートフォン向けアプリもあり、日→英や英→日のクイズや、例文の音声聞くことが出来るなど内容が充実している。そのため、テスト前などに利用する生徒も多い。
- ・**授業公開(12月6日)**: 1年生コミュニケーション英語Ⅰ、2年生のコミュニケーションⅡと英語表現Ⅱの授業を公開した。高校だけでなく、小・中学校の先生方も多く参観に来られたため、授業研究では小・中・高の指導の実態について情報交換することもできた。



↑ 普段の授業の様子。ワークシートを使い、ペアで音読やリテリング活動に取り組んでいる。



↑ Recitation contest 発表の様子、評価表。

## 成果①

8月実施GTEC結果より(1、2年生全員対象で実施)  
《2年生》

| 実施時期      | 前回    |      | 今回    |      | 《前年度2年生》 |      | 高2全国 |
|-----------|-------|------|-------|------|----------|------|------|
|           | スコア   | グレード | スコア   | グレード | スコア      | グレード |      |
| RLW Total | 384.1 | 3    | 423.9 | 3    | 399.2    | 3    | 448  |
| Reading   | 136.6 | 2    | 152.7 | 3    | 153.9    | 3    | 166  |
| WPM       | 59.4  | -    | 68.0  | -    | 69.0     | -    | 77   |
| Listening | 152.2 | 2    | 172.0 | 3    | 147.7    | 2    | 174  |
| Writing   | 95.3  | 3    | 99.0  | 3    | 92.9     | 3    | 106  |
| Speaking  | -     | -    | 95.3  | 3    | -        | -    | -    |

《1年生》

| 実施時期      | 今回    |      | 高1全国 |
|-----------|-------|------|------|
|           | スコア   | グレード |      |
| RLW Total | 392.5 | 3    | 415  |
| Reading   | 139.8 | 2    | 152  |
| WPM       | 61.0  | -    | 69   |
| Listening | 147.6 | 2    | 159  |
| Writing   | 104.4 | 4    | 103  |
| Speaking  | 98.2  | 3    | -    |

・RLWトータルでグレード4(高校英語中級レベル)以上の生徒は、2年生では229人中86人(37.6%)、1年生では235人中53人(22.6%)だった。

・2年生では、Listeningの伸びが顕著だった。

・1年生のWritingが全国平均を上回った。

## 成果②

・上記のような取り組みを継続することで、生徒達は英語でのアウトプットに徐々に慣れてきた様子である。「間違ってもいいから、とりあえず何か書いたり話したりしてみよう」という姿勢が見られる。授業中のさまざまなペアワークにも積極的に取り組んでいる。

・1、2年生は年に2回GTECを全員で受験しているが、加えて希望者対象のGTECや英検も年に数回実施している。英作文の添削や、英検二次の面接指導を行っている。受験を希望する生徒が増加しており、意欲的に対策に励む者が多い。

## 今後の課題・方向性

- ・外部試験や模試の結果を追跡すると、少しずつ伸びは見られるものの、全国平均をやや下回っている。Readingに関しては、普段英語を読む量が不足しており、長文を読むことに慣れていない生徒も見られる。さまざまなジャンルの英文を、なるべく多く読ませていく必要がある。
- ・Listeningに苦手意識を持っている生徒が多い。授業や朝自習でも練習をしているが、繰り返し指導していき耳を慣れさせたい。スマートフォンで音声やスクリプトを確認できる問題集も多いので、家庭学習で活用させる。
- ・英語で書いたり話したりすることへの抵抗は少なくなってきたようなので、今後はaccuracy(正確さ)のレベルを上げるにはどうすべきか考えていく。
- ・単語テストに向け勉強しても、その後すぐに忘れてしまう生徒もいる。語彙力は英語を学習していく上で基盤となるものなので、定着に向けて今後も繰り返し指導していく。
- ・本校は1学年約240人在籍しているため、パフォーマンステストの実施時期や回数、内容や評価方法などについて、できるだけ教員の負担にならないように検討していく必要がある。